

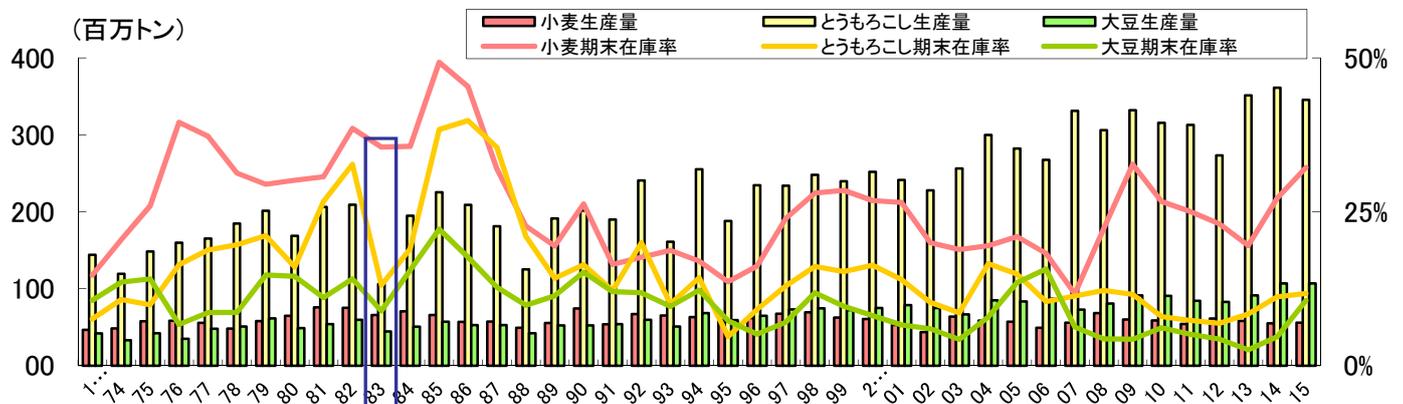
Ⅱ 参考図表

・ 米国の穀物等需給と作付面積、価格	148
・ 米国における穀物等価格と作付動向	149
・ 穀物等の主要輸出国における輸出状況と我が国の輸入先国別輸入量	150
・ 我が国における小麦の主要輸入先国の輸出先	151
・ 我が国におけるとうもろこしの主要輸入先国の輸出先	152
・ 我が国における大麦の主要輸入先国の輸出先	153
・ 我が国における大豆の主要輸入先国の輸出先	154
・ 我が国におけるなたねの主要輸入先国の輸出先	155
・ 世界のGM作物の栽培状況	156
・ 世界の食品価格等の動向	157
・ 世界の農産物の輸出規制の現状	158
・ 世界の栄養不足人口の動向等	159
・ 世界的な食料価格高騰問題への対応（国際的な議論）	160
・ 世界の天候（2014年）	161
・ （参考）クロープカレンダー	162
1 小麦	163
2 米	166
3 とうもろこし	170
4 大麦	172
5 大豆	173
6 なたね	174
7 米国の作物別地図	175
8 米国の産地における作付状況（輪作ローテーション）	176
9 EUの作物別地図	177

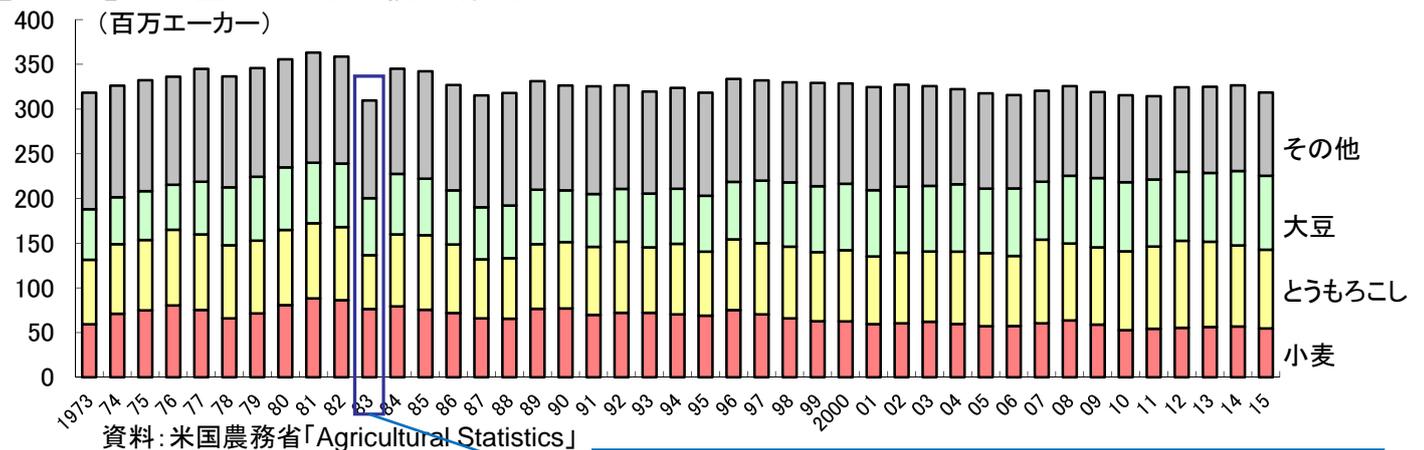
米国の穀物等需給と作付面積、価格

価格の動向は、作付面積や生産量等と密接な相関関係にある。特に1983年度（減反政策後、異常気象の影響で大きく減産）は顕著な相関性。

【図 1】 米国の穀物等の生産量、期末在庫率の推移



【図 2】 米国の作付面積の推移



【図 3】 穀物等価格の推移

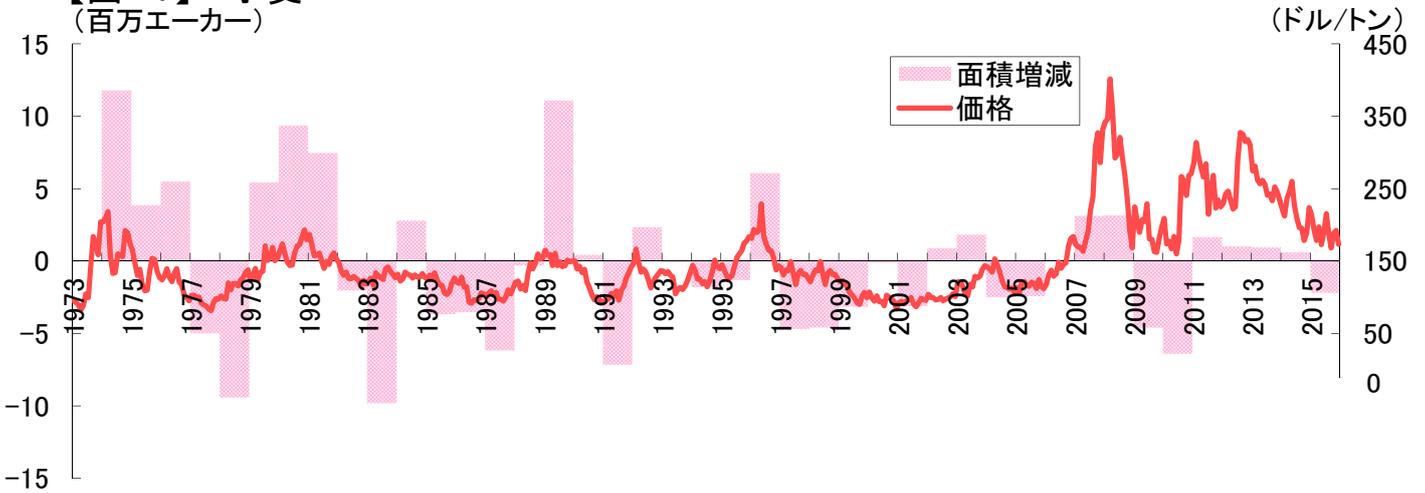
需給状況と作付動向、価格相互に影響する例として、前年度までの豊作を背景に、米国では1983年に減反策として、PIK (Payment in Kind) 計画を実施。しかし、減反実施後、熱波により大きく減産、価格は上昇した。（PIK減反面積 小麦：35%、とうもろこし40%）



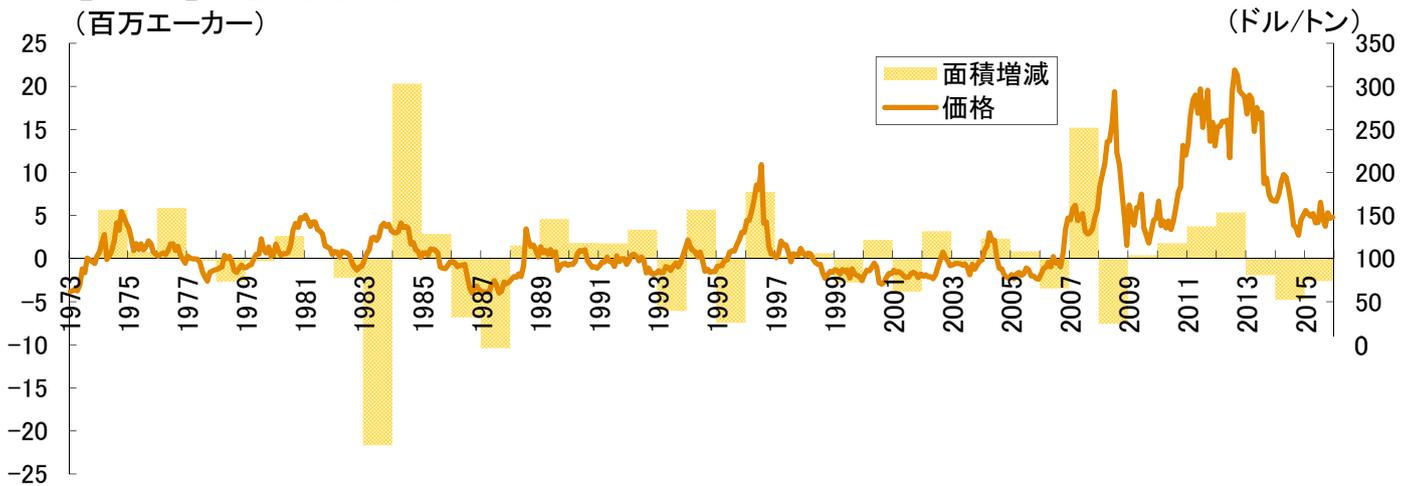
米国における穀物等価格と作付動向

米国における穀物等の作付動向は、価格の動向との相関性が強いと見られる。

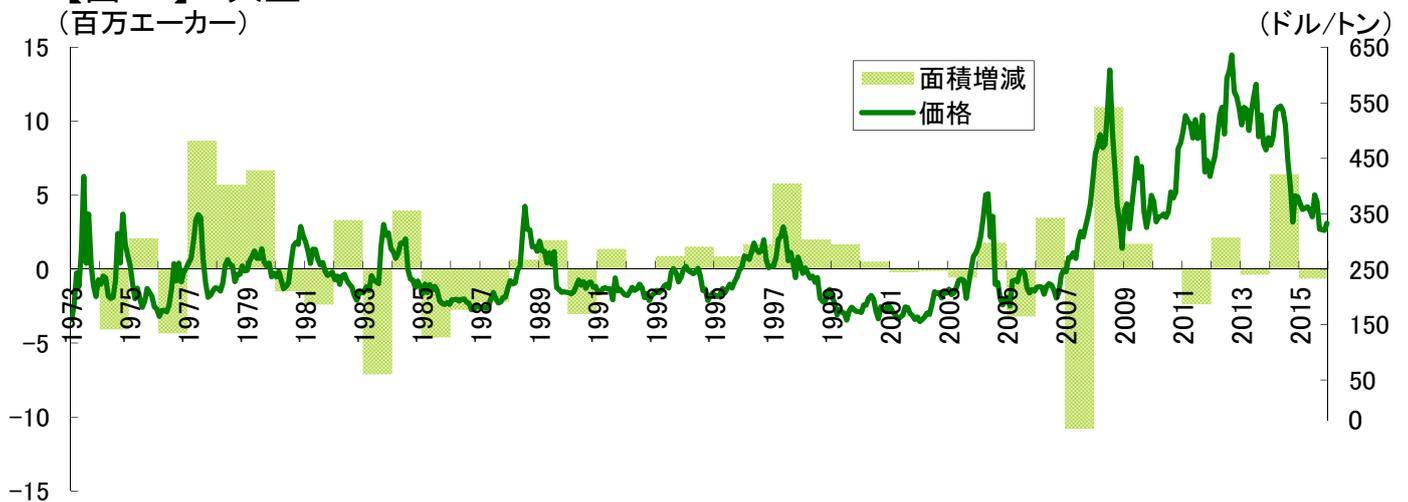
【図 1】 小麦
(百万エーカー)



【図 2】 とうもろこし
(百万エーカー)



【図 3】 大豆
(百万エーカー)

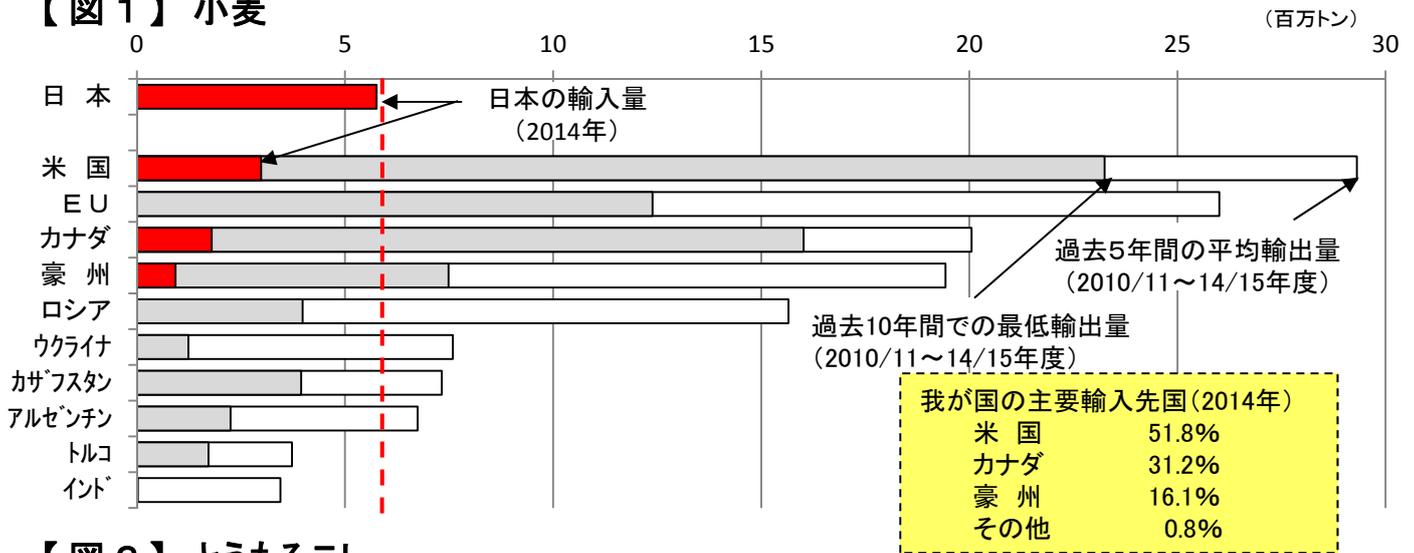


資料：米国農務省「Agricultural Statistics」等

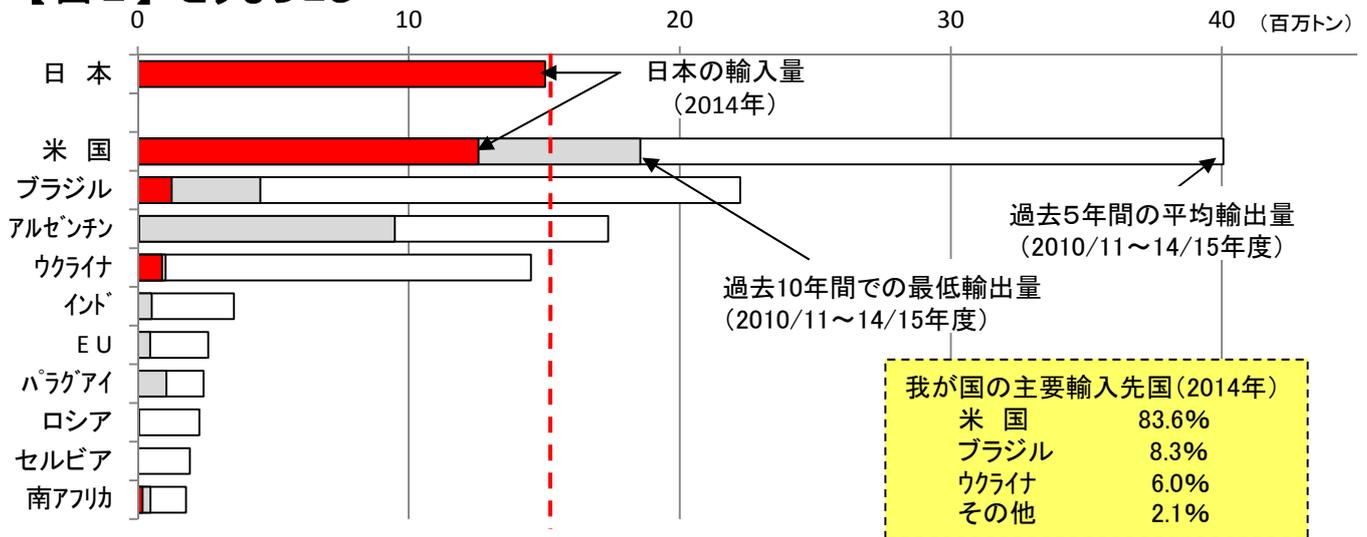
注：価格は、シカゴ商品取引所における各月第1金曜日の期近価格。

穀物等の主要輸出国における輸出状況と我が国の輸入先国別輸入量

【図1】小麦



【図2】とうもろこし



【図3】大豆



資料: USDA「PS&D」、財務省「貿易統計」

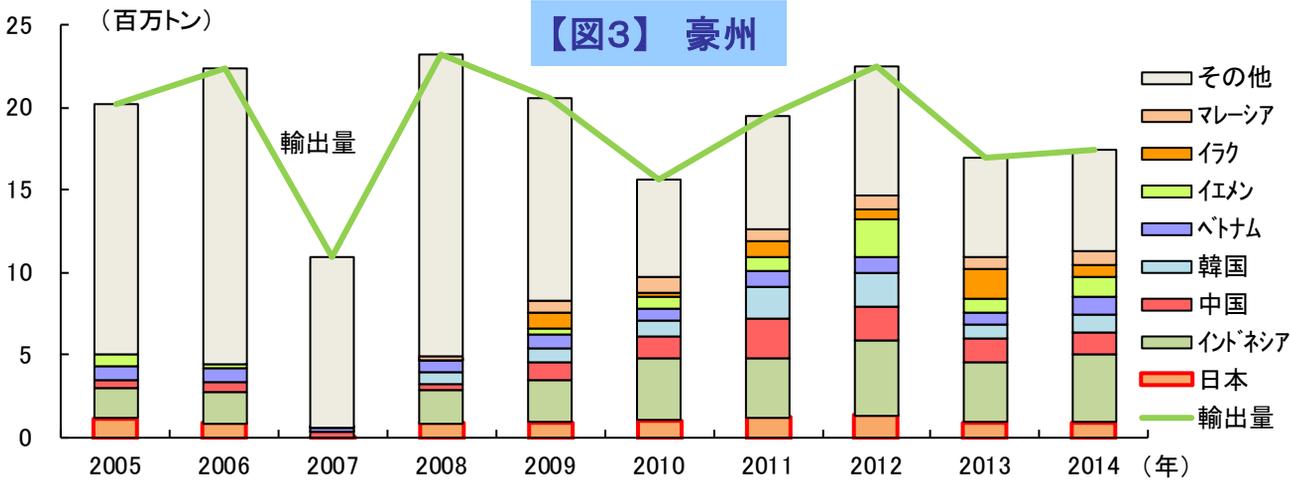
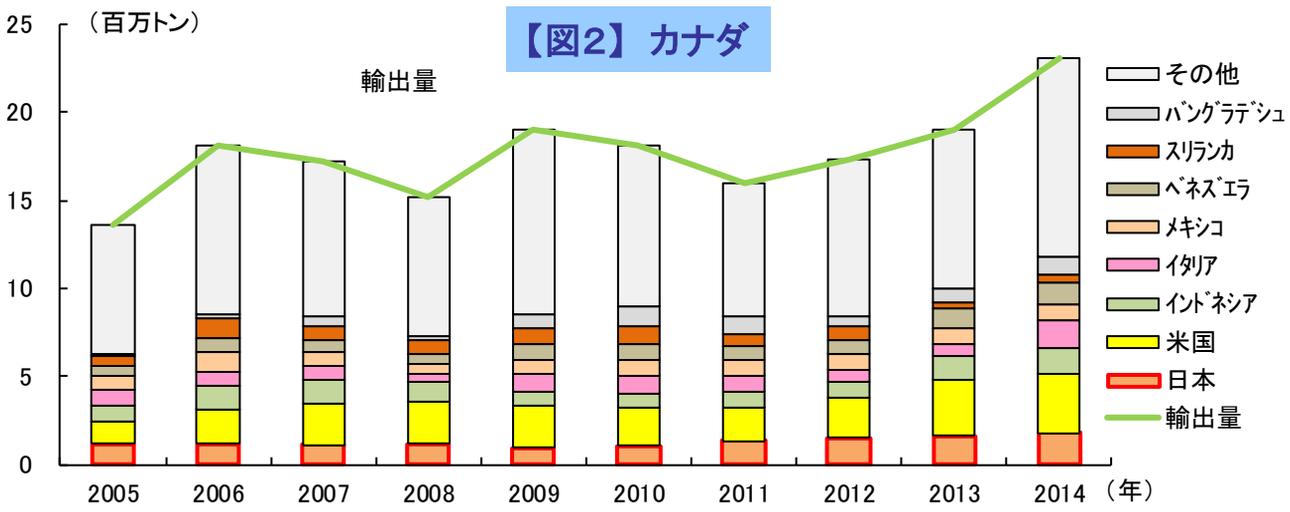
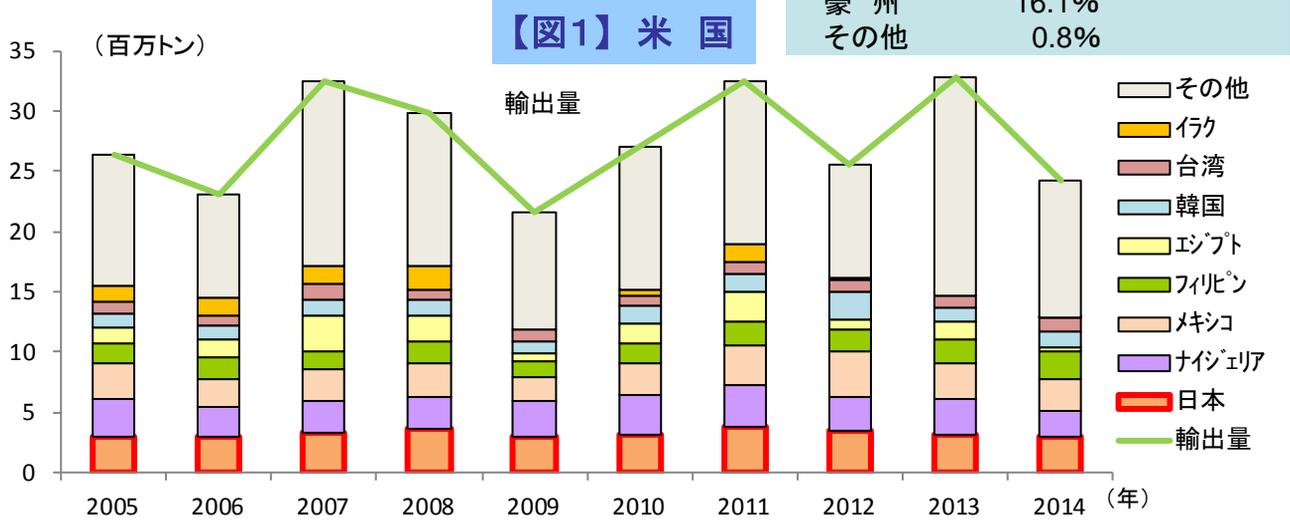
注: 主要輸出国は、過去5年間の平均輸出量の上位10カ国である。

我が国における小麦の主要輸入先国の輸出先

- 1 輸出量の変動の中で、各国からの日本の輸入量は、一定の水準で推移。
- 2 豪州からは、アジア地域向け輸出が多い。

我が国の主要輸入先国 (2014年)

米 国	51.8%
カナダ	31.2%
豪 州	16.1%
その他	0.8%

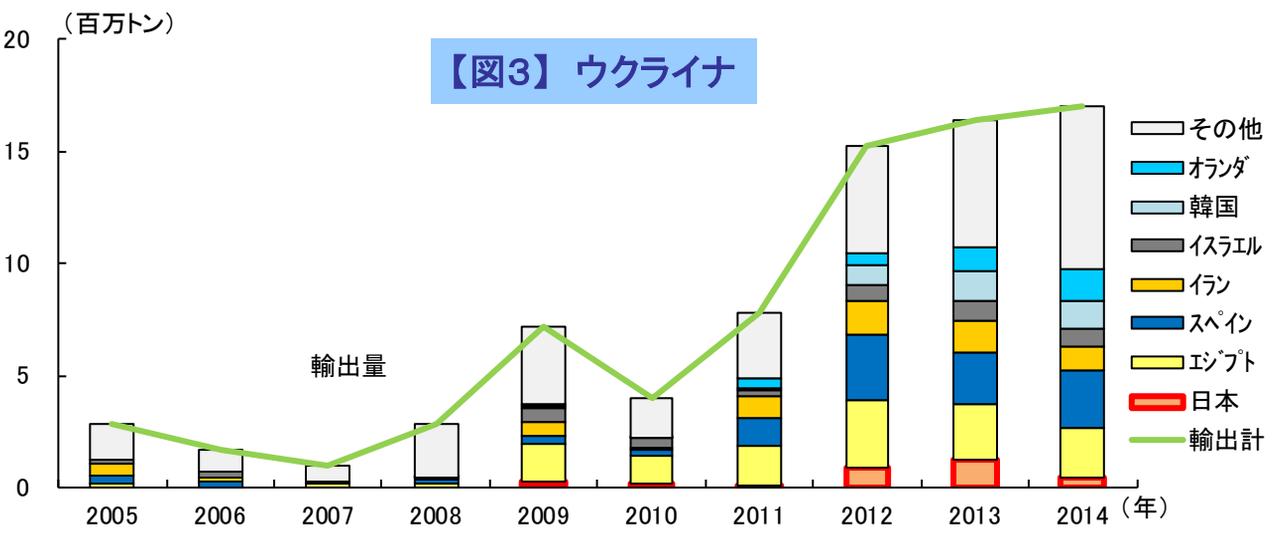
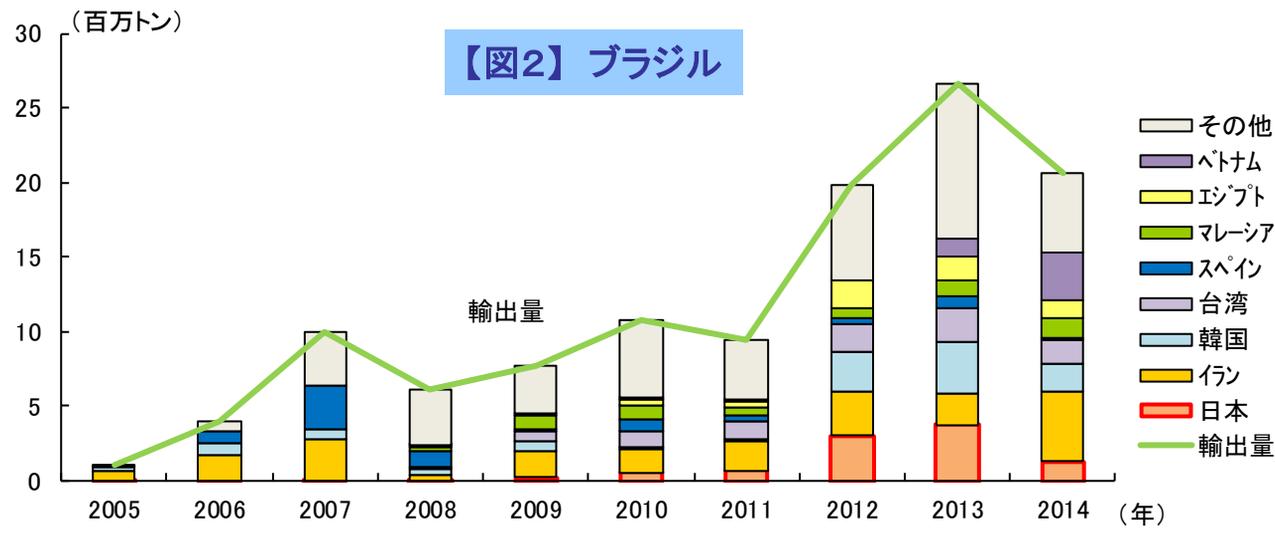
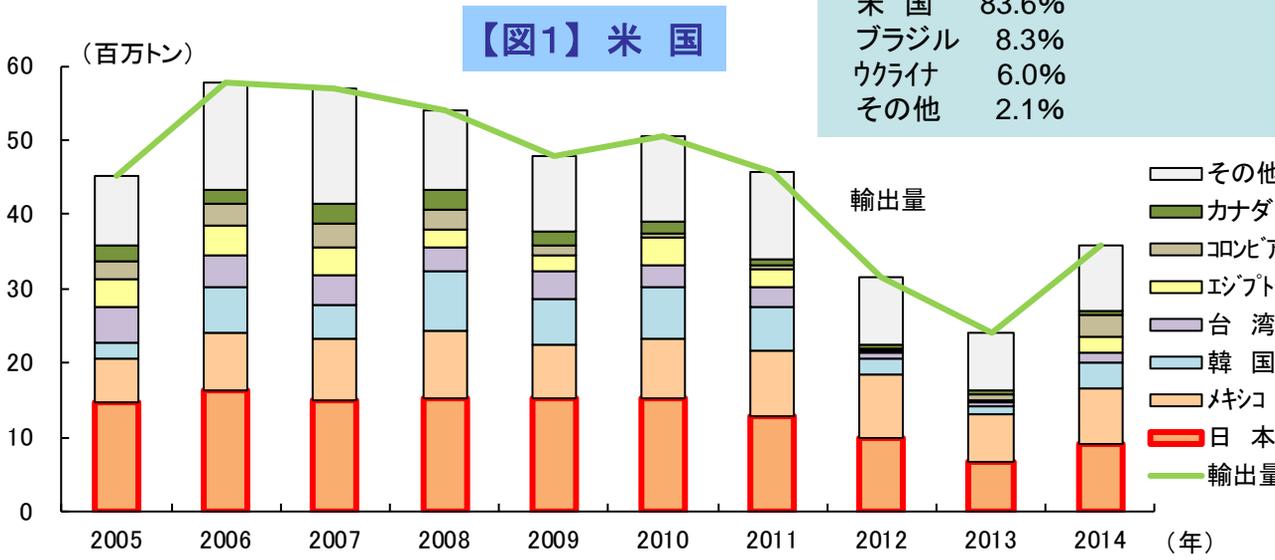


資料: USDA「FAS」、Global Trade Atlas
 注: 輸出量は暦年のとりまとめを使用しているため、市場年度による輸出量のとりまとめ数量と異なる。

我が国におけるとうもろこしの主要輸入先国の輸出先

- 1 我が国は、米国からみて最大の輸出先国。
- 2 一時ブラジル等からの輸入が拡大したが、米国からの輸入がやや戻る。

我が国の主要輸入先国 (2014年)
 米国 83.6%
 ブラジル 8.3%
 ウクライナ 6.0%
 その他 2.1%



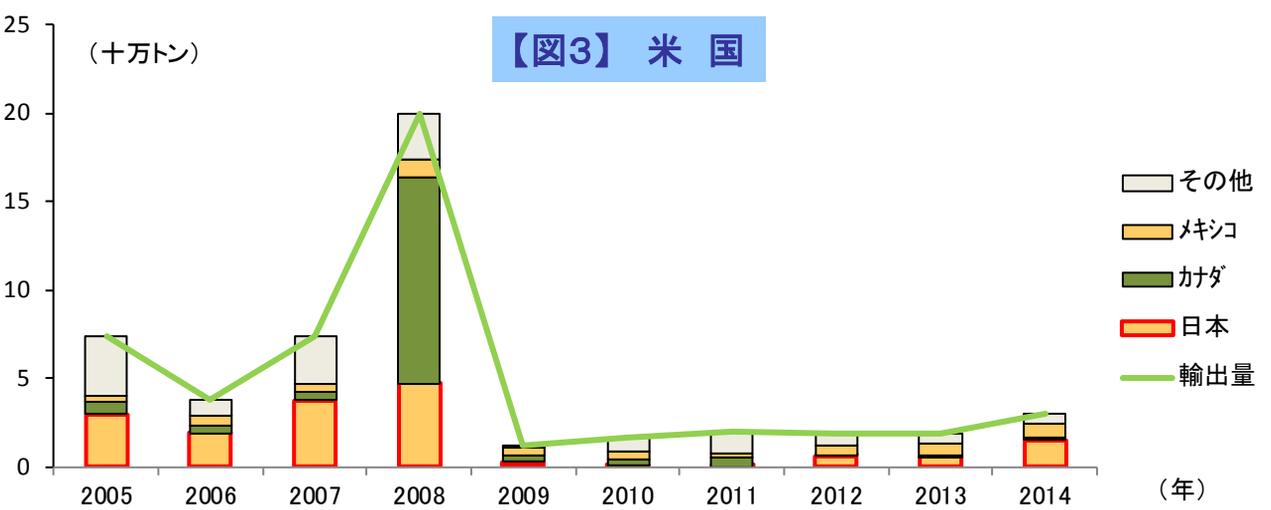
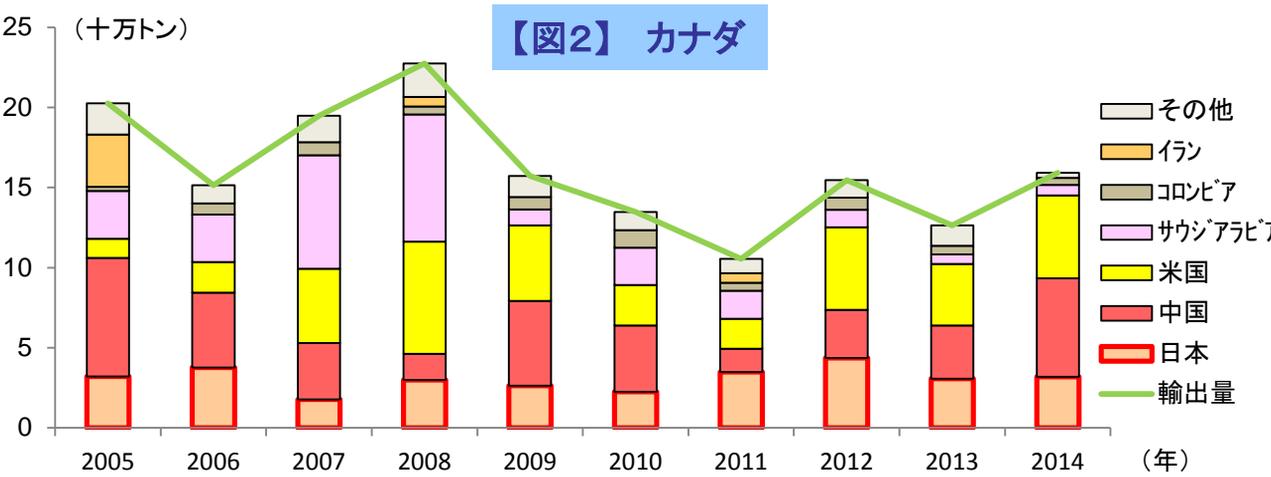
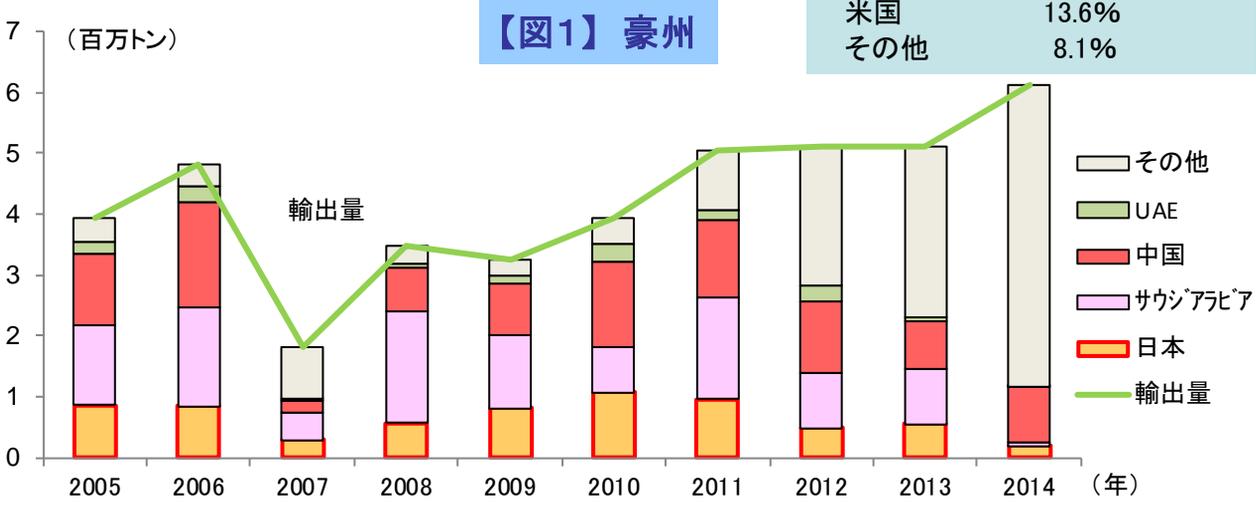
資料: USDA「FAS」、 「Global Trade Atlas」
 注: 輸出量は暦年のとりまとめを使用しているため、市場年度による輸出量のとりまとめ数量と異なる。
 -148-

我が国における大麦の主要輸入先国の輸出先

- 1 中国や米国が、輸入競合国。
- 2 3カ国とも、輸出量は年により変動。日本向けの輸出量も安定していない。

我が国の主要輸入先国 (2014年)

豪州	52.1%
カナダ	26.2%
米国	13.6%
その他	8.1%



資料: USDA「FAS」、 「Global Trade Atlas」
 注: 輸出量は暦年のとりまとめを使用しているため、市場年度による輸出量のとりまとめ数量と異なる。

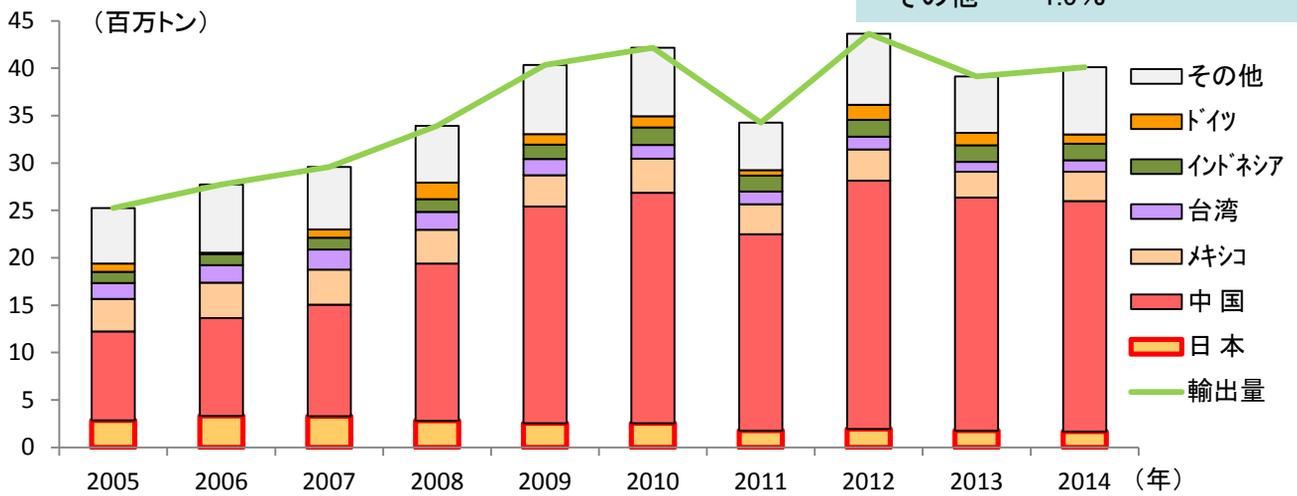
我が国における大豆の主要輸入先国の輸出先

- 1 米国、ブラジル、カナダともに、近年中国向けが急増。
- 2 米国の輸出先の6割、ブラジルの輸出先の7割を中国が占める。

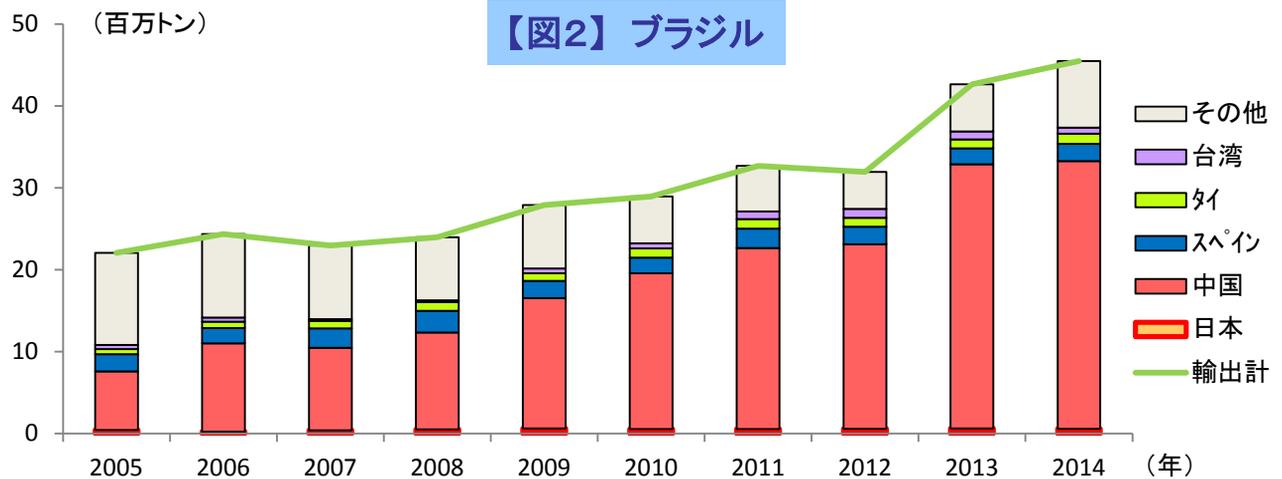
我が国の主要輸入先国 (2014年)

米 国	65.4%
ブラジル	20.9%
カナダ	12.2%
その他	1.5%

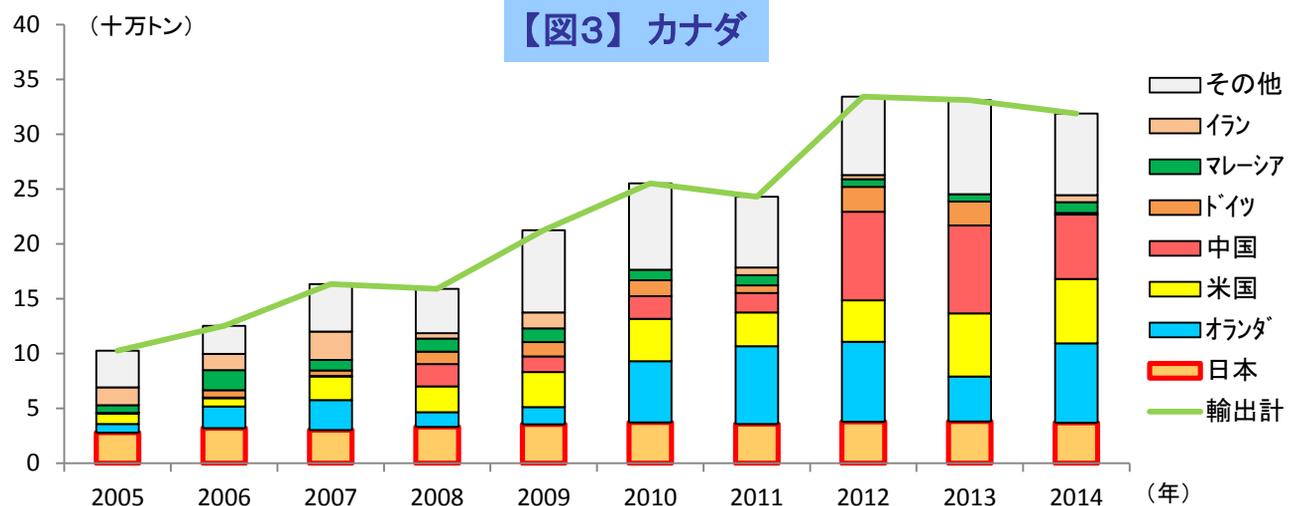
【図1】 米 国



【図2】 ブラジル



【図3】 カナダ



資料: USDA「FAS」、Global Trade Atlas

注: 輸出量は暦年のとりまとめを使用しているため、市場年度による輸出量のとりまとめ数量と異なる。

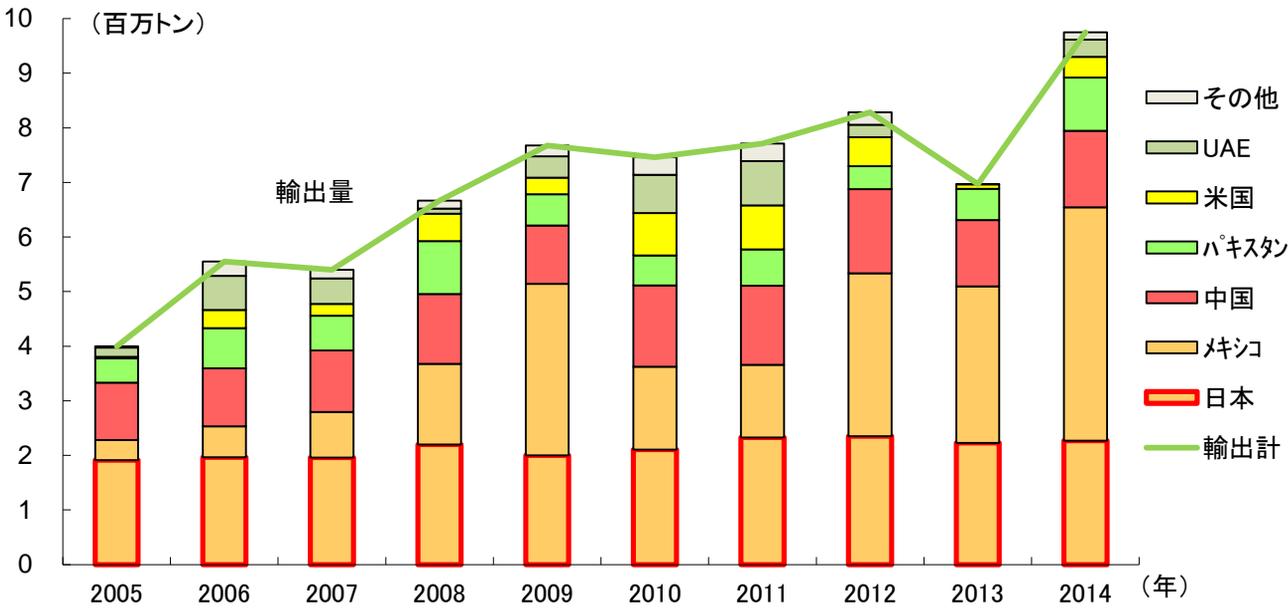
我が国におけるなたねの主要輸入先国の輸出先

- 1 カナダの輸出先は一時中国向けに増加していたが、2010年に黒足病菌等を理由に中国が輸入を制限。我が国のカナダからの輸入量は、一定の水準で推移。
- 2 豪州の日本向けの輸出は2004年以降減少。

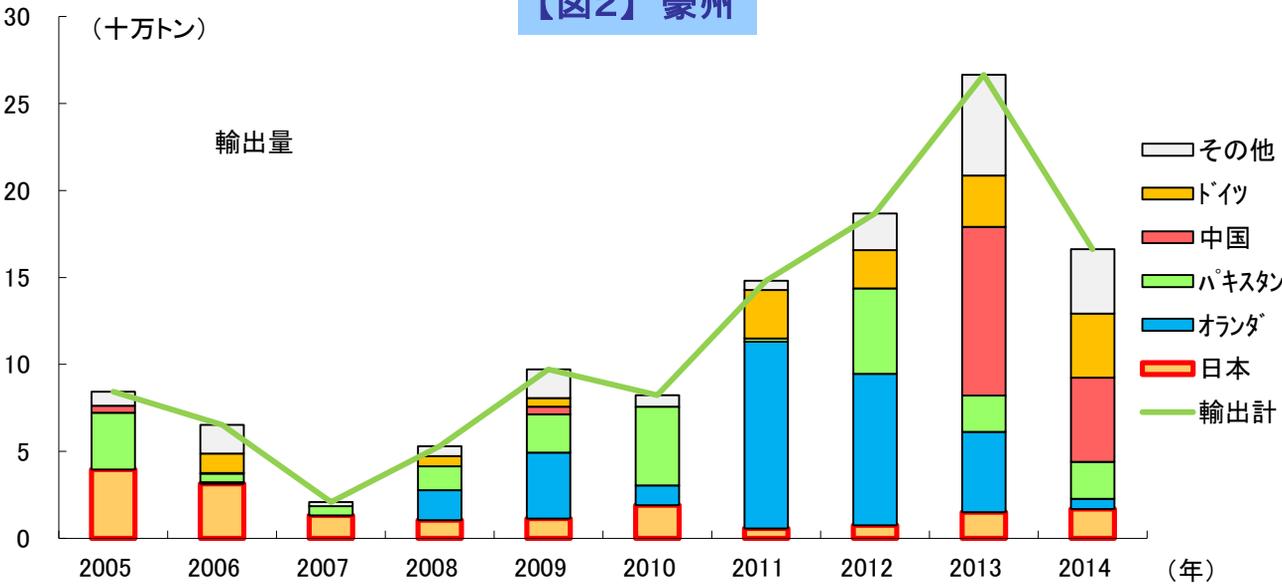
我が国の主要輸入先国 (2014年)

カナダ	93.0%
豪州	7.0%
その他	0.0%

【図1】カナダ



【図2】豪州

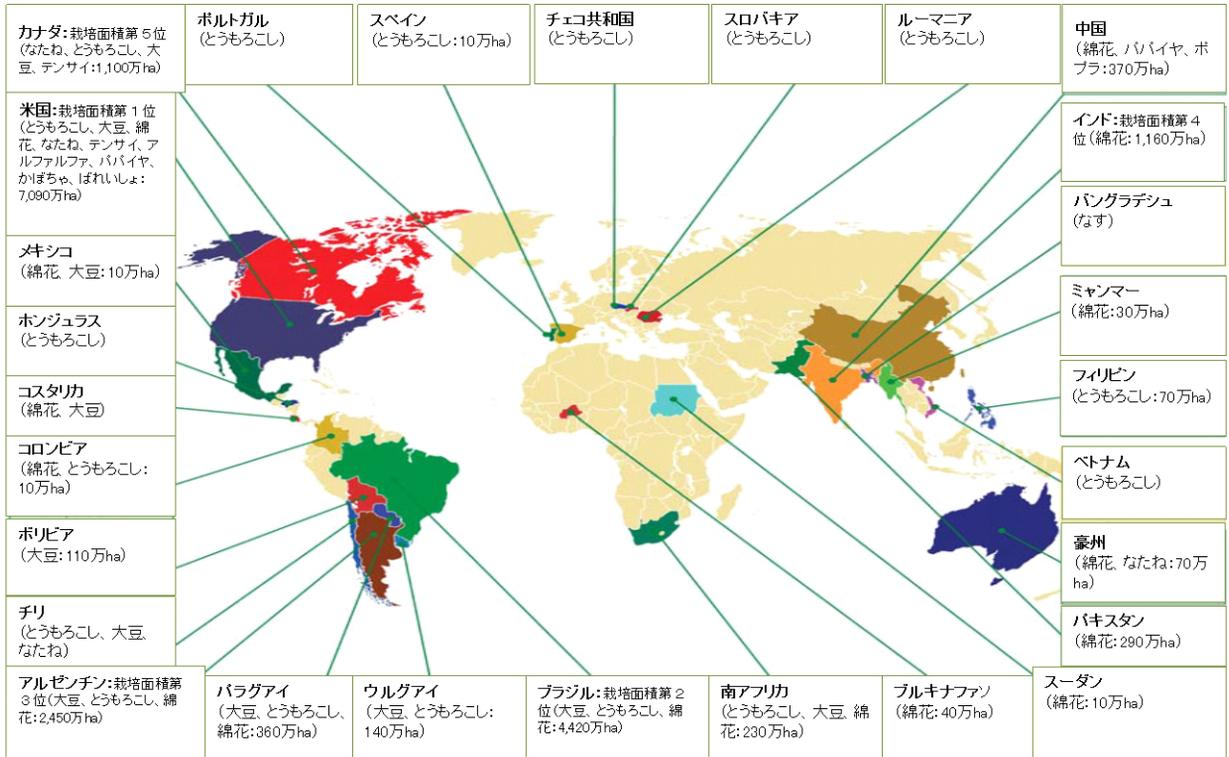


資料: USDA「FAS」、「Global Trade Atlas」
 注: 輸出量は暦年のとりまとめを使用しているため、市場年度による輸出量のとりまとめ数量と異なる。

世界のGM作物の栽培状況

- 2015年現在、大豆、とうもろこし、綿花等を中心に世界28ヵ国で栽培され、栽培面積は米国、ブラジル、アルゼンチン等を中心に年々増加してきたものの、価格低下の影響により前年と比べ1%減少し1億7,970万ヘクタールとなった。
- 生産者の9割以上が小規模農家。全世界におけるGM作物の栽培面積は新興国及び発展途上国が全体の54%を占め、面積比で先進国を上回っている。
- 米国は世界最大の栽培国であり、大豆、とうもろこしの9割以上がGM品種。

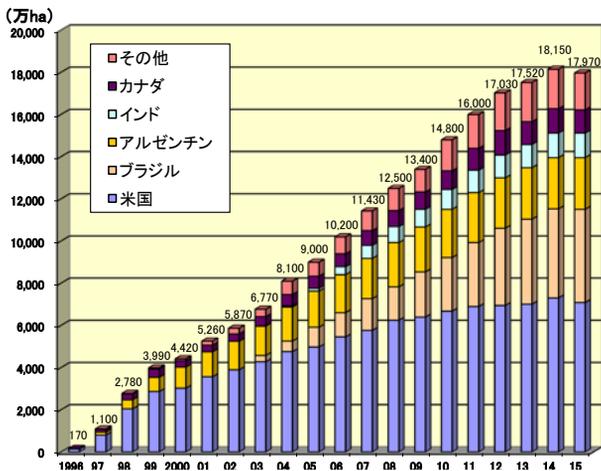
○ 世界の遺伝子組換え作物の栽培面積(2015年現在)



注:栽培面積が記載されていない国は10万ha未満

資料:国際アグリバイオ事業団(ISAAA)HPにより農林水産省で作成。

○ 世界のGM作物の栽培面積



資料:国際アグリバイオ事業団(ISAAA)HPにより農林水産省で作成

○ 世界及び米国の主要GM作物別栽培状況

単位: 百万ha, %

	2015年			
	GM作物 栽培面積	世界		米国
		栽培 面積	栽培 比率	栽培 比率
大豆	92	111	83	94
とうもろこし	54	185	29	92
綿花	24	32	75	94
なたね	9	36	24	

資料:国際アグリバイオ事業団(ISAAA)、米国農務省「Acreage」により農林水産省で作成。